

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

メタアナリシス 5. 精神・行動障害

文献

Kongpakwattana K, Sawangjit R, Tawankanjanachot, et al. Pharmacological treatments for alleviating agitation in dementia : a systematic review and network meta-analysis. *British Journal of Clinical Pharmacology* 2018; 84: 1445-56 Pubmed ID: 29637593, 臨床試験登録: CRD42017056722

1. 目的

認知症の「焦燥性興奮」に対して最も効果的で受け入れやすい治療法 (抑肝散を含む) を明らかにするシステマティックレビューとネットワークメタ分析を行うこと

2. データソース

MEDLINE, EMBASE, PsycINFO, CENTRAL, Clinicaltrials. gov (-7th February 2017)

3. 研究の選択

認知症の「焦燥性興奮」に対する種々の薬剤の効果をプラセボや他の薬剤と比較検討したランダム化比較試験で、「焦燥性興奮」は the Cohen-Mansfield Agitation Inventory (CMAI), the Neuropsychiatric Inventory-Agitation subscale score (NPI-A), the Behavioural Pathology in Alzheimer's Disease rating scale-Aggression/agitation subscale score (BEHAVE-AD-A), the Neurobehavioral Rating Scale-Agitation subscale score (NBRS-A) で評価されたもの。

4. データの抽出

“dementia”、“agitation”とそれに関連する他の用語をキーワードとして上記のデータベースから別々の 2 名が文献を検索した。データは revised Cochrane Risk of Bias Tool for RCTs を用いて研究の質が評価され、多変量解析を用いて利用された。主要なアウトカムは 8 週目の「焦燥性興奮」スコアが投与開始時の 50%減少とした。二番目のアウトカムは 8 週間の治療継続状況とした。

5. 主な結果

36 文献が適合し、5585 名 (30.9%男性、平均年齢 81.8±4.9 才) が対象となった。8 週目の治療効果はデキストロメトルファン・キニジン合剤 (オッズ比 3.04; 95%CI, 1.63-5.66)、リスペリドン (オッズ比 1.96; 95%CI, 1.49-2.59)、選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (オッズ比 1.61; 95%CI, 1.02-2.53) でプラセボに比較して有意に有効性が認められた。ハロペリドールは他の対照薬に比べほとんど効果がみられなかった。抑肝散はオッズ比 1.44; 95%CI, 0.84-2.38 で有意差を認めなかった。オキシカルバゼピンを除く、他の治療はプラセボと比較して治療継続に関して非劣性であった。

6. 結論

リスペリドン、選択的セロトニン再取り込み阻害剤、デキストロメトルファン・キニジン合剤は認知症の「焦燥性興奮」に対する効果は明らかである。しかし、デキストロメトルファン・キニジン合剤は単独の RCT によるものである。今回の知見からはハロペリドールは有効性において、オキシカルバゼピンは認容性において認知症の「焦燥性興奮」への処方への支持はされない。

7. 漢方的考察

なし

8. 論文中の安全性評価

記載なし

9. Abstractor のコメント

認知症の「焦燥性興奮」に対する種々の薬剤の RCT の系統的レビューとネットワークメタ解析をおこなった論文である。採用された 36 文献中 3 件の抑肝散を用いた RCT が含まれている。抑肝散はプラセボに対して有意な効果を認めなかった。しかし、有意差の認めたリスペリドンでは 11 件の RCT が対象となっていたことを考慮すると、抑肝散の RCT が今後増えていくことによって有効性も明らかになる可能性があると考えられた。

10. Abstractor and date

後藤博三 2019.9.21